



認知症の夫『尊厳ある介護』読み、大きな変化

[あとで読む](#)

【尊厳ある介護（81）】読後に夫は「安心して生きられる」と明るくなった

公開日：2019/08/19 (ソサエティ)

里村 佳子（社会福祉法人呉ハレルヤ会呉
ベタニアホーム統括施設長）

「認知症の夫がこの本を読んで変わったのです」と、望月秋絵さん（仮名75歳）は明るい声で話してくれました。



CC BY-SA /Genista

夫の康郎さん（仮名86歳）は、80歳過ぎてから物忘れが始まりアルツハイマー型認知症と診断されました。診断を受けた当初、秋絵さんはこれからに不安を感じて随分落ち込みました。

だから、これ以上夫の認知症が進まないよう、同じことを繰り返して話しても辛抱強く聞いたり、自分でできることはやってもらったりするように心がけていました。

しかし、認知症の症状の一つなのですが、しつこく同じことを聞かれることがあります。そうすると、秋絵さんも我慢できなくなって爆発してしまいます。すると、康郎さんもむきになって感情的になり、二人は険悪な状態に陥ることが何度もあったそうです。

それだけではありません。秋絵さんが家を留守にした時、康郎さんが車を運転した形跡があったので、それ以来秋絵さんは外出時車のカギを持って出ることにしました。そして、数年前には嫌がる康郎さんを説得して免許を返納させたそうです。

そんな時、拙著『尊厳ある介護』を秋絵さんは読まれたのです。

もともと康郎さんは教育者だったこともあり読書家です。書くことも得意で郷土史の編纂などもしていました。それで、秋絵さんは夫に本を勧めたのです。

康郎さんは読み終えた後、「これで安心して生きられる」と顔をほころばせたそうです。

それからの康郎さんは明るく積極的になりました。

後々、康郎さんは「自分は（認知症で）言葉が出ない。出ないけど気持ちがある。それを知っておられる人がいることに感謝しております。今できることを努力して維持し、さらに挑戦する意欲が与えられました」

「この本を多くの人を読めば、（認知症を）理解してくれる人が増えるので安心して生きられます」と語られたそうです。自分の認知症で記憶力や判断力は衰えているけれど、感情がある人間であることを理解されていることが分かった。それで、安心されて生きる希望が湧いたのではないのでしょうか。

ある時お習字を習っている秋絵さんは書展のためにうちわに書を書いていました。その書の横に絵を描けば華やかになると思いつき、康郎さんに絵を書いて欲しいと頼みました。

康郎さんは絵筆を60年以上持ったことがありません。

「わしは絵なんて描けん」と、初めは拒否されたそうです。秋絵さんは諦めないで鉛筆で下絵を書いてその上をなぞるようにお願いしました。

今までの康郎さんであれば「できるわけない」と言って終わっていたのですが、秋絵さんがパレットに絵の具を出すと下絵をなぞり始めたのです。

できあがったうちわは書展で大好評でした。気を良くした康郎さんはうちわを持って姉の自宅を訪問しました。そして、うちわをプレゼントすると姉は破顔一笑したのです。

康郎さんは「秋絵は人を使うのが上手いから絵を描かされた」と、照れたそうで

す。

また、これまでは食事の時に「お茶碗にご飯をよそって」と康郎さんに頼むと「どうしたらいいのか」といちいち聞かれるので、秋絵さんは詳細に言葉で説明していました。それでも、康郎さんにはそれが理解できず食事の手伝いを投げ出すことがあったそうです。でも、今は違います。

「ご飯はどのようにしてつぐのか」と聞かれると秋絵さんは炊飯器を指して「あそこよ」と伝えます。すると、「ああそうか」と言って炊飯器からご飯をよそってくれるようになりました。

「夫は言葉で説明してもすぐに忘れるので、記憶に頼らず視覚に訴えるようにしました」と秋絵さん。炊飯器を見ると康郎さんはご飯をよそうことが過去の経験から連想できたのです。

もちろん、二人の関係に暗雲が立ち込めることもあります。秋絵さんは「私にはあなたが必要」と、自尊心をくすぐり仲直りします。

康郎さんは一度本を読んだけれども忘れたので、再び読み返し秋絵さんと一緒にメールをくださいました。私の本を読んで「（認知症が理解されるようになると希望が持てて）安心して生きていけるようになった」という当事者からのメッセージを読んで、私の胸に熱いものが込み上げてきました。



『尊厳ある介護 「根拠あるケア」が認知症介護を変える』（岩波書店、本体1800円）

（注）事例は個人が特定されないよう倫理的配慮をしています。

＜お知らせ＞『尊厳ある介護』はこの連載に加筆してまとめた本です。認知症のご本人、ご家族、介護に携わっている方々に読んでいただきたい本です。

里村さんが寄贈してくださった本を、ニュースソクラ編集部より10冊、先着順にてプレゼン

トさせていただきます。

メール（宛先Info@socra.net）にてタイトル欄に『尊厳ある介護』を希望しますと記し、住所・郵便番号・電話番号と氏名を記して送信してください。ソクラのサイトの問い合わせ欄から書き込んでいただいてもメールが編集部には送られません。

続報リクエスト

マイリストに追加

以下の記事がお勧めです

- > [里村 佳子のバックナンバー](#)
- > [ピーター・フォンダの死 50年前の自由な世界](#)
- > [東京地検特捜部が捜査 久々に中央政界にメス？](#)
- > [世界株価の大乱調、震源地は中国](#)
- > [リスクを減らして株投資、そこそこ稼いで老後を豊かに](#)

プロフィール

最近の投稿



里村 佳子（社会福祉法人呉ハレルヤ会呉ベタニアホーム統括施設長）

法政大学大学院イノベーションマネジメント（MBA）卒業、広島国際大学臨床教授、前法政大学大学院客員教授、広島県認知症介護指導者、広島県精神医療審査会委員、呉市介護認定審査会委員。ケアハウス、デイサービス、サービス付高齢者住宅、小規模多機能ホーム、グループホーム、居宅介護事業所などの複数施設の担当理事。2017年10月に東京都杉並区の荻窪で訪問看護ステーション「ユアネーム」を開設。

いいね！ 0

シェア 0

ツイート

LINE LINEで送る

[この記事編集](#)

ソクラとは

FAQ

編集長プロフィール

利用規約

利用案内

プライバシーポリシー

著作権について

特定商取引法に基づく表示

メーカーソクラ

お問い合わせ

お知らせ一覧

コラムニストプロフィール

Copyright © News Socra, Ltd. All rights reserved